

## 丹波縄文の森塾 第12日目活動報告 (令和6年3月16日)

3月16日(土) 天気:晴れ



今日は今年度の丹波縄文の森塾の最終活動日。まずは恒例のシューベルト花壇の植栽です。

この花壇は、平成25年に兵庫丹波の森協会とオーストリアのウィーン市13区の友好親善提携20周年の記念として玄関前に作られたものです。

杉本サポーターが作ってくださった「金明孟宗竹」という珍しい竹プランターに、暑さに強く、秋まで花が楽しめるゼラニウムの苗を植え、花壇に飾り付けました。



次に、塾生は里山のシイタケ置き場に行き、自分たちが体験したように、丹波縄文の森塾の先輩が原木の玉切りや駒うちをして栽培してくれたシイタケを収穫しました。

その後、この一年間を締めくくる閉塾式を行いました。

丹波の森公苑の武部事業推進部長の挨拶の後、一年間の活動をスライドで振り返り、塾生一人ひとりが一番楽しかったこと、感じたことなどを発表しました。



「縄文土器づくりが面白かった」、「縄文人の知恵や工夫を知ることができた」、「田植えや稲刈りはじめての体験だった」、「みんなで力を合わせて花壇を作ることができて嬉しかった」、「サポーターさんに色々教えてもらってよかった」、「たくさんの友達ができてうれしかった」、「いろんな体験ができて楽しかったので、来年も参加したい」など、いろんな感想を聞かせてくれました。

また、この一年間、塾生の活動を見守り、指導いただいたサポーターから、塾生に贈る言葉をいただきました。

そして1班班長の吉田衣花さんが、塾生を代表して修了証書を受け取りました。また、卒塾の記念として杉本サポーターから卒業花といわれる「アオモシ」のプレゼントがありました。



最後に、塾生の皆さんには、この塾での体験を通して学んだことを生かし、これからも様々なことに挑戦し、元気で活躍されることを期待しています。

